

# 市民ネットワークみはま

# 中村明子のまちづくり通信 No.69

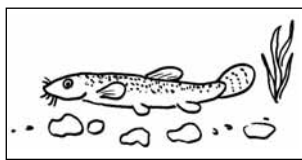


## 議会傍聴記

2010年12月議会から、議員が一般質問する際、今までの一括質問だけでなく、一問一答方式を選択できるようになりました。一問一答だと、問いに対してすぐに市側からの答弁が返ってくるので、やりとりの流れがよくわかりました。しかし議員が発言ごとに起立し、マイクをたて、質問をし、市側も発言ごとに起立し、マイクをたて、答弁する。その間には議長が発言を許可する声も入るので、あわただしい感じです。また議会での発言は、基本的には議会まで議員と市の両方で練りあげられているので、発言の仕方だけを変えても、一問一答の良さが引き出されているか、という疑問は残ります。

また、この議会から、議員の質問の際、プロジェクターを使って資料を見せる試みも始まりました。持ち運び式のスクリーンを設置という簡易な設備で、議場も明るいままだだったのでスクリーン画像が鮮明に見えなかったり、スクリーンが片側に一つなので、傍聴席の場所によってはスクリーンが見えにくかったりもします。しかし、表や写真で具体的に説明資料を見ることができ、言葉で聞くだけより説得力のあるものになっていました。

今回新しく始まった一問一答も、説明資料の視覚化もまだいろいろと問題はあるものの、改善をしながらより良いシステムになっていくことが期待できそうです。



議場にて



都川水の里公園には、千葉市のレッドリストAランクの「重要保護生物」のホトケドジョウが生息しています。

## 政治カフェ

みはまネットでは、毎月1回、地域で市民活動をされている方を招いてお話を聞いたり、千葉市の出前講座をよんだり、お茶を飲みながらの学習会を開いています。12月は、千葉市立海浜病院院長の廣瀬先生に、「上手な病院のかかりかた」について話をいただきました。病院は3時間待ちの3分診療、と言われるように大勢の患者さんで病院はパンク状態、そして医師は疲弊状態。どうしてそうなったのか、社会的背景と患者さんの現状の説明がありました。病院は地域の大切な、限りある資源です。上手に使わないと、病院が成り立たなくなってしまう。そのためは、まず、かかりつけ医を持つ、地域医療連携室を利用しよう（海浜病院で窓口を開設）、日ごろから健康に気をつけよう、ということだそうです。

また、「病気については、病院や医師にお任せするのではなく、あなた自身のことだから、自ら考え、自己責任において判断するべき。そのためにもしっかりと説明を聞いていいんですよ。」というものでした。

### 【医者にかかる10か条】

あなたがいのちの主人公・からだの責任者

1. 伝えたいことはメモして準備
  2. 対話の始まりはあいさつから
  3. よりよい関係づくりはあなたにも責任が
  4. 自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
  5. これからの見通しを聞きましよう
  6. その後の変化も伝える努力を
  7. 大事なことはメモをとって確認
  8. 納得できないときは何度でも質問を
  9. 医療にも不確実なことや限界がある
  10. 治療方法を決めるのはあなたです
- (ささえあい医療人権センターより)

## インフォメーション

お問い合わせは みはまネットまで Tel・Fax 278-5005

◆ネットふれあい市 次回2/26(土)  
 毎月第4土曜日10~14時/真砂中央ショッピングセンター  
 有機栽培野菜・フェアトレードの雑貨アースアン・フリマ等

弁護士による  
**市民法律相談**  
 (無料)

毎月第2土曜日 午後  
 要予約  
 お問い合わせ：市民ネットワークちば  
 Tel・201-2551

### ●ネット情報メール配信

イベントや学習会など、市民ネットワークの情報を配信します。  
 下記アドレスまで、「ネット情報メール希望」と送信してください。  
 (pc,携帯可) mihama@chibanet.jp

## 暮らし生活みつめれば せいじ政治

市民ネットワークちばは、1990年に誕生。  
 現在、市議5人を送り出し、市民の声を議会に届けています。

### 市民ネットの3つのルール

- ・議員は市民の代理人 原則2期で交代
- ・選挙はカンパとボランティアで手作り
- ・議員報酬の多くを市民に必要な政策活動費に